

## H19年全国町村長大会・意見発表 坪内伸浩 静岡県富士川町長

ただいまご紹介いただきました、静岡県、富士川町長の坪内でございます。私の町は、日本三大急流富士川の河口西岸に位置し、富士山の眺望の良さ日本一を誇る町です。

そんな我が富士川町も真の地方分権が実現されることを期待しまして、来年平成20年11月1日を目標として、隣接する富士市との一市一町の合併を進めているところです。

その合併協議も大詰めを迎えているところですが、地方交付税の大幅削減や国民健康保険事業などの社会保障費の増加で、政策的に使える一般財源が毎年減り続けており、理想とする地域住民のニーズに応じた多様で質の高いサービスの提供に関しては、現状より遠いところへ向かってしまうのではという住民の不安の声を聞くことが多いのも現状であります。また、合併した近隣の自治体の状況を見ましても、現時点では必ずしも地域の活力がアップしたとの検証も得られていないのも実情であります。

このような中、当町を含む1市3町が構成メンバーとなっている一部事務組合により組織されている病院組合の問題は、甚だ深刻であります。

現在、我が自治体病院は、19科・320床を擁し、地域の住民の生命を守るため、民間病院が進出しない部門を担っていることから、より多くの不採算部門を抱えており、一般会計からの繰り入れと自助努力による経費捻出に大変苦勞しております。

当然、合併で問題になってきますのは、合併先の公共団体においても既存の自治体病院を抱え財政を圧迫しているところであり、今後、合併により新たな自治体病院を抱えることになりまして更に、その負担が大きくなります。

そして経費以上に問題なのは医師不足であります。当地区の病院におきましては、特に産婦人科、小児科の医師不足が深刻であり、産婦人科は常勤医師がおらず、非常勤医師の週3回の外来診療にとどまっております。また、小児科においては常勤医師1人で頑張っている状態です。さらに、救急医療につきましても、患者数に対し、医師が不足し、心細い限りで危機感がただよっております。

しかしながら、将来の地域を支えるのは、これから誕生し、育っていく人たちです。その新しい命と成長を守っていくためにも産科、小児科医療を充実させることは、これから子育てに向かう住民に安心感を与えるとともに、少子化対策の面でも重要であり、しっかりと支援していかなければならないと思い、私を含め関係する首長に課せられた責任を重く感じております。

是非、地域の必要最低限の医療体制を維持出来るよう、臨床研修を終了した医師が地方へ派遣されるよう、地方勤務の義務づけや、退職した女性医師の復職支援等、早急に医師確保対策を講じていただくと共に医療保険制度の改善や不

採算部門への財政支援に特段の配慮がなされるよう国、県に対して強く要請しているところであります。

以上、富士川町として、残された時間は、一年足らずとなりましたが、1万7千人の町民と共に安心して暮らせる明るい未来を切り開くために全力を尽くしますことを誓いまして、私の意見発表といたします。